

平成29年度 学生海外PBLプログラム 概要

部局名 農学生命科学部

区分	内容
事業名	農村地域における環境保全型で強い農業を考える
指導教員	① 農学生命科学部 准教授 丸居 篤 ② 農学生命科学部 准教授 森 洋
学生の所属	農学生命科学部 地域環境工学科1年生 6名
渡航先 (渡航期間)	デンマーク (2017年9月11日(月)～9月18日(月))
実施 スケジュール	平成29年 7月 6日～ 事前調査(座学, 農家アンケートの実施) " 9月12日～ デンマーク国渡航 " 9月13日 Grinsted農業学校, 農業機械メーカー訪問 " 9月14日 オーフス大学訪問 " 9月15日 kalo農業学校(有機農業学校)訪問 " 9月16日 農家訪問 " 9月17日 農家アンケート実施(ミルクフェスティバルにて) " 9月18日 帰国 " 9月20日～ 調査結果まとめ
プログラムの 概要	<p>1. 目的: 弘前市と同じく寒冷地であるデンマークでは農業の組織化や農作物の安全・安心に関わる情報公開, 環境保全型農業により農作物のブランド化に成功している. 先進的な農業を学び, 関係者から意見を聞くことで弘前周辺の農業に役立てられることを考える.</p> <p>2. 事業概要: デンマークの農家, 農業学校および大学を訪問し, デンマーク農業の概要, 教育制度, 環境に関する規制を調査する. また, 弘前市周辺とデンマークの農家に同一のアンケートを実施し, 農家の実態を把握すると共に双方の違いを分析する.</p> <p>3. 設定した課題: 弘前市周辺は農業が盛んな地域であるが, 後継者不足や高齢化, 環境問題, 耕作放棄地増加など様々な問題を抱えている. 特に, 環境への配慮, 担い手不足, 農業所得について調査検討する.</p> <p>4. 期待される成果等: デンマークの農家が農業を強くするために構築してきた, 教育システム, 協同組合, 国際戦略等について, 参加学生らは強い印象を持つと考えられる. 弘前市での新たなプランについて, 学生ならではの視点で提案することができる.</p> <p>5. 当事業が弘前市や弘前市関連地域にあたえる効果・成果等: デンマークの先進的環境保全農業を知ることができる. また, 環境保全および教育システムの制度化, 農産物のブランド化に成功し, ヨーロッパで農業大国であり続けるデンマークの農業に学ぶ所は多く, 地方自治体の農業の将来ビジョンに貢献できる.</p>

プログラムの様子



【写真1：国土の約6割が農地】



【写真2：牛の放牧。農地面積に応じて頭数制限がある】



【写真3：農業学校で説明をうける】



【写真4：リンゴの有機栽培の様子（合成写真）】



【写真5：有機野菜。農薬0，化学肥料0】



【写真6：ミルクフェスティバルの品評会で受賞した牛。会場でアンケート実施】

今後の展望

デンマーク農業の強みを学び、本事業でまとめた提案は以下の通りである。

- ・授業料なし、住み込み可、海外からの留学生歓迎、農家での長期研修、年齢制限なしというような農業を学びたい人が学べる学校を作ること
- ・環境に配慮した農業を目指す。農薬、化学肥料の使用減を行い情報開示することで、弘前市の農産物をほかの地域の農産物との差別化によりブランド化を目指す。
- ・農業を資格化すること。デンマークでは農業学校卒業後に資格を獲得でき、農業教育をしっかり受けた証明となる。日本でもその資格が認められ、資格を持っていることで職を得られるのなら農業を職業選択の1つと考えられるようになるのではないだろうか。

今回のデンマークの調査で、有機栽培農家（農薬0，化学肥料0）がここ数年で国全体の9%程度まで増加しており、環境保全農業の最先端であることが感じられたが、一足飛びに弘前に導入はできないと考えられた。一方で、後継者不足による空き農地（耕作放棄地）の増加、一般市民の農業への理解度の低下など日本と同様の課題があることを知ることが出来た。デンマークにおいては、外国人就農者の受け入れ、企業の農業参加、アグリツーリズムの実施等の対策を導入しており、今後注視したい。